

カモシカのヒノキ食害防止対策

神岡営林署 双六担当区主任 高 濱 美 樹

1. 目 的

62年から63年にかけて植栽したヒノキのカモシカによる食害が平成元年の春に発生した。被害はヒノキの穂先を食べるもので、坂の谷国有林で90%、ヲハギ谷国有林で20%見られた。ひどいものは数回の食害で、写真(1)のように竹箒状になっているものもあった。

また、林道から遠く、人目につきにくい所では特に多く見られた。

ヒノキは、稚幼樹の頃に穂先を傷められると二股や箒状の木となることから食害防止対策が必要となった。

2. 内 容

平成元年度からの防止対策として、①ブラマック散布、②ポリネット被覆、③鳥追いテープ取り付け、④無下刈の4手法を実施することとした。

これらの防止対策は、初めての試みであったので、この効果を確認するため坂ノ谷国有林31に林小班に植栽木が概ね100本程度含まれるよう縦30m・横15mのプロットを4区画設定し、前期①-③と無処理の比較調査を2年度に行った。

3. 結 果

(1) 試験地での調査結果

調査結果は別表-(1)のとおりであるが、防止対策を行った中で一部食害が見られた。その原因は次のとおりである。

① ブラマック散布

葉剤の薄かった部分が食害

② ポリネット被覆

雪のためネットが外れた部分が食害

③ 鳥追いテープ取り付け

テープ取り付け部位以外が食害

無処理区と比較すると、この3方法共、食害防止効果が高い結果となった。

(2) 平成元年度から3年度までの調査結果

ア. 各方法別の実行面積割合

実行面積の割合は別表-(2)のとおりである。

イ. 各方法別の防止効果等比較

(7) ブラマック散布

野兎用のアスファルトを成分とする忌避剤を、2倍の濃度に薄め、背負式噴霧器で約2秒間、ヒノキの穂先に噴霧塗布する方法である。

実行結果は高い防止効果が得られた。

しかし、重量のある噴霧器を背負っての造林地内での作業は歩行等不安定であり、また大量の水を必要とすることから使用箇所が限定される。さらに、薬剤がノズル内で固まるため、常時灯油の携帯が必要である。

なお、穂先を黒く塗布することによる成長への影響はまだ未解明である。

(4) ポリネット被覆

ミカンを包むネット状の袋をヒノキの先端に被覆する方法である。取り付け・取り外しに8人/haと工期が高い。また、降積雪等で倒伏するものが多いのと成長が阻害される。

(9) 鳥追いテープ

ヒノキの穂先の芯を外した2-3番目の支葉に、約20cmに切ったテープをホッチキスで止める方法である。

使用道具が軽便で労働強度・安全確保の面で利点大きい。

しかし、テープの取り付け部位によっては穂先の食害の恐れと、植栽木が小さい場合は工期が低下することがある。

(1) 無下刈

イバラ等の植生の多い所では被害が少ないことから実施した。植栽木が植生に被圧されるデメリットもあり、植生の状態を見ながら坪刈を行うなど植栽木の成長度合いに対応した下刈を行う必要がある。

ウ 経費の比較

経費の比較は別表(3)のとおりである。

鳥追いテープはブラマック散布、ポリネット被覆に比べ安価である。

なお、ポリネット被覆は経費も高く、植栽木の成長阻害が大きいことから、1年で取り止めた。

4. まとめ

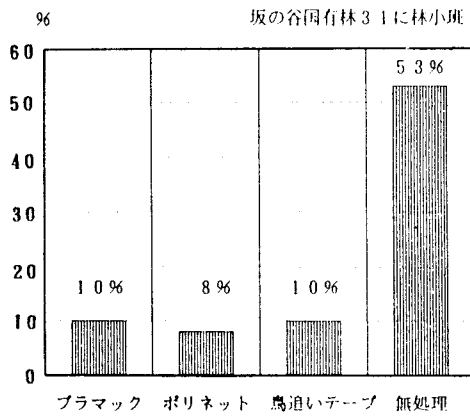
(1) 今後のカモシカ食害防止対策の進め方

- ① 投資効果・作業効率が高い鳥追いテープを積極的に活用する。
- ② 苗長等作業の効率性を判断しながらブラマックを併用していく。
- ③ 労働強度の軽減と労働安全の確保を図る。

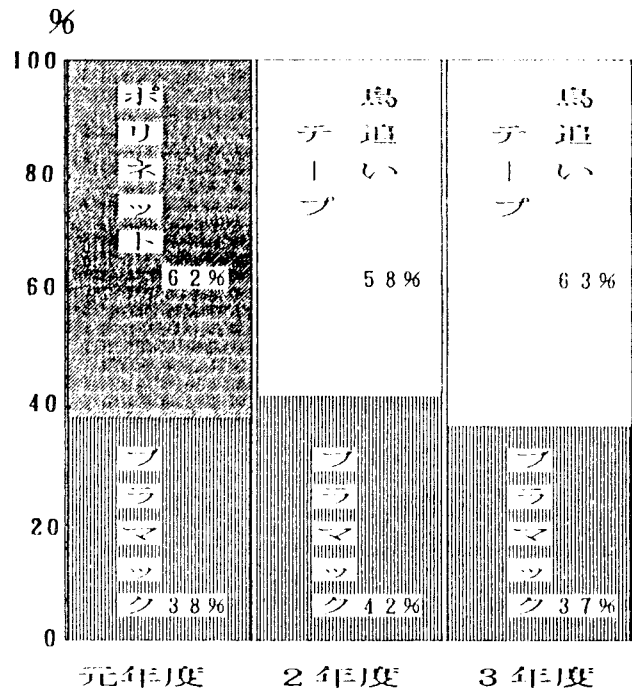
(2) 今後の課題

- ① 事業的規模での経過を観察する。
- ② より効果的で労働安全が確保できる方法を検討する。

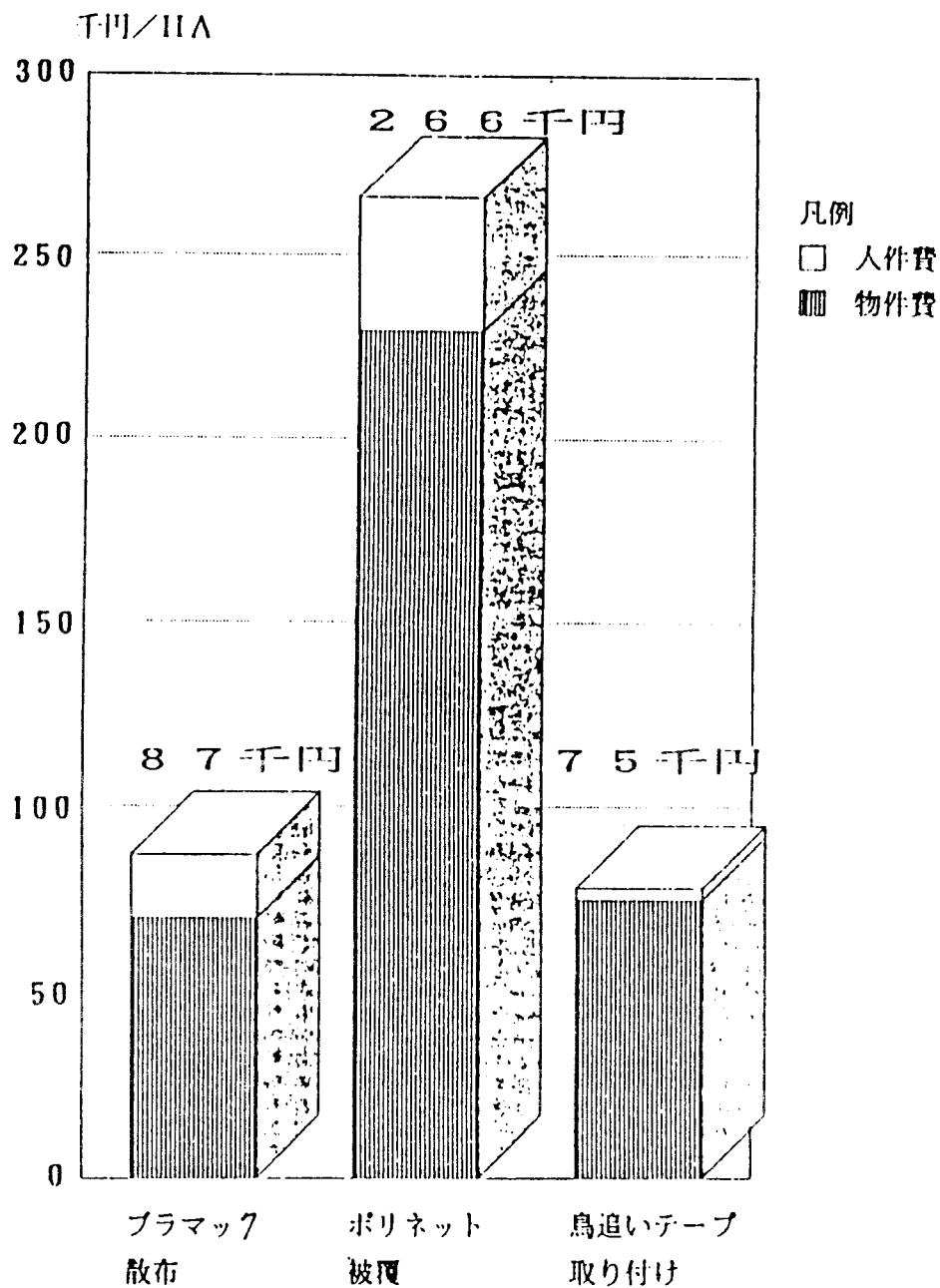
別表-1 食害率



別表-2 防止対策方法別実行割合



別表-3 防止対策別経費



写-1) 竹箒状に食害されたヒノキ



写-3 鳥追いテープの取り付け



写-2 プラマック散布状況

